

令和6年度 第3回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時	令和6年11月8日（金曜日）午前10時から午前12時まで
開催場所	東京都心身障害者福祉センター12階研修室
出席者	妹尾委員長、宮田副委員長、会田副委員長、橋爪副委員長、徳武委員、相良委員、岡田委員、樋口委員、渡辺委員、横山委員、丹澤委員、吉田委員、清水委員、皆川委員（欠席 小出委員）
	東京都相談支援従事者研修検討会 芝委員、稲垣委員
事務局	東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名 公益財団法人総合健康推進財団職員 3名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認（事前にメールにて送付済み） 次第 資料1、令和6年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告 資料2 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿 Ver.5 ・令和6年度サービス管理責任者等指導者養成研修に受講していただいた相談支援従事者研修検討会の委員の芝様、稲垣様も参加いただいている。 ・研修の委託先の公益財団法人総合健康推進財団職員の方も参加している。 ・記録のために速記者の参加と録音をさせていただくこと、また今回の検討会議事録（要旨）はホームページでの公開対象であることを了承いただきたい。ただし、資料については出席委員の意見により公開・非公開を決めることができる。
-----	--

2 研修実施状況の報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討事項に入る前に、総合健康推進財団と事務局から、現在の研修実施状況の報告をお願いしたい。
総合健康推進財団	<p>【基礎研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回は定員1,200名、演習参加予定者数が1,146名、うち修了者数が1,129名となっている。受講証明書、修了証書については11月7日に発送済み。 ・第2回は同じく定員1,200名、申込み、受講決定者数も同じく1,001名。動画配信が10月31日から11月8日までとなっている。演習は11月18日から12月25日までの全12日程となっている。 ・ファシリテーター説明会を11月6日にオンラインで実施した。出席者35名となっている。 <p>【更新研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員1,400名、申込みと受講決定者共に831名となっている。事前

	<p>動画配信が9月12日から15日まで、演習が9月24日から10月18日までの全14日程実施をした。事後動画配信ということで今年度からの取組となっており、演習終了後から3日間となっている。未視聴者数が2名で、以外は全員修了予定。修了証書の発送を12月13日に予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り会を10月28日にオンラインにて開催し、出席者数が16名となっている。 <p>【実践研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員1,600名、申込みが1,122名となっており、受講決定通知メールを11月20日に送る予定。動画配信が12月12日から16日まで。ファシリテーター説明会を12月18日に実施予定。演習は、年明け1月8日から2月28日までの全16日程で実施する。 <p>【専門コース別研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回は定員250名、申込みと受講決定者数共に183名となっている。動画配信が10月21日から23日まで。修了者について現在、認定中となっている。 ・第2回は定員150名に、申込者は現在集計中となっている。受講可否通知が12月9日に一斉メールにて送信をさせていただき、その後、動画配信が1月20日から22日まで実施予定。
事務局	<p>【演習指導者養研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の2日目まで終え、受講者が第1回基礎研修の演習にファシリテーターとして実習参加している。その後、9月27日に3日目として振り返りの会を催し、21名が受講した。 ・第2回においては、1日目のファシリテーション等の説明、基礎研修の概要説明を受け、11月6日のファシリテーター説明会まで終えられ、基礎研修の演習にそれぞれ参加予定になっている。参加は23名となっている。全ての日程に一人ないし二人の参加があるので、よろしく願いたい。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日開催の第2回演習指導者養成研修（以下、演指研）の第1日目、11月6日開催の基礎研修ファシリテーター説明会、また10月28日開催の更新研修のファシリテーターの振り返り会について、それぞれ出席された岡田委員、橋爪副委員長、会田副委員長から報告をお願いしたい。
岡田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・演指研について、今年度は心障センターより関係機関にも声かけしていただいたおかげで、前年度まで年間7、8名だったファシリテーターが、今年度は新たに約50名近くが加わってくれた。演指研の講師をしていただいている尾上さんという方にファシリテーションの基礎ということで、演指研に申し込んでくれた方に約1日かけて研修している。 ・私からは、ここ二、三年、基礎研修の概要ということで、基礎研修の目的やねらい、あとは実際に演習で出てくるような困ったときの対応などを簡単ではあるが、お話している。 ・11月6日の基礎研修ファシリテーター説明会では、第2回の演指研に申し込まれた方は全員参加し、説明会が終わった後にオンライン上ではあるが、教室進行を担う方と、演指研で今回初めてファシリをやる方と当日の

	<p>教室進行で顔合わせを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会のときに、総合健康推進財団から教室進行とファシリテーターは大体こういう予定でやろうと思っているという話を聞かせていただいた。2回目の基礎研修は、ファシリテーターを担う方は皆さん1回、1日程を担う状況でファシリの数は順調に増えているかなと思っている。 ・その一方で、今後ファシリの質が課題となって出てくると思っている。1年間に1、2回しかファシリテーターとして参加しないと、受講者に伝えるのが、難しい部分も出てくるのではと思っている。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日に更新研修の振り返り会を実施し、参加をさせていただいた。グループで出た意見としては、やっぱり今年度初めてスーパービジョン（以下、SV）演習が実施されたので、事例検討におけるSVと職員個別のSVの意見が大変多かったと思う。 ・事前にSVに特化した説明会も行ったが、「説明会があつて助かった」という意見と、説明会があつたけれども「用語の理解など、フワッとした感じのまま臨むようになってしまった。もうワンクッション、レクチャーがあつても良かった」という意見もあった。 ・今後については、今回、演習の最初に自己紹介の場を設けたが、アイスブレイクの要素がもう少しあると場が温まるのではないかとの意見や、SVについても、“ケースをどうする”みたいな事例の話に引っ張られてしまうので、その辺をどう成立させるか。また受講者から用語が分かりにくいという意見が結構あつたみたいなので、その説明や分かりやすさをどうするかといった意見としてあつたと思う。今回、初めてだったので、やってみた中でどう練り上げるか、今後の打合せでも詰められたらと思っている。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・11月6日に第2回基礎研修の説明会を行い、内容の変更した部分を中心に説明をした。 ・演習3で分かりにくかったといった意見が挙がっていた。内容としては、リアルニーズと個別支援計画の項目である利用者及び家族の意向との兼ね合いについて、演習3ではあくまでニーズの導き出し方に絞ることとして、個別支援計画を作成する演習5に利用者及び家族の意向を検討するというすみ分けをした。 ・演習4ではワークが細切れになっていたので、これをまとめるといったところが大きな変化だったと思うので、ここを説明した。 ・個人的な感想だが、演習指導者養成研修の方々とベテランファシリとが同じ説明会は、なかなか難しいのではないかと思った。演習指導者養成研修の方にはより丁寧に説明する必要があるし、ベテランの方には、同じ説明は要らないというものも多いし、伺いたい意見もまた違うので、今後すみ分けが必要なのではと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。今回、それぞれ実施されて、ファシリの質をどう担保していくかなど運用についての細かい今後の課題の提起があつた。 ・SVは1回目の手応えを感じて、今後の修正やバージョンアップのポイントがあつた。 ・そのほか、ご質問とか、もう少しこの点の説明などあるか。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修のときに演指研の方から、事前に他の演習、対面のところの見学ができるありがたいという声があつた。いきなり本番で臨むという感じ

	<p>だったので、全員強制ではなく、事前に他の日程の研修に参加できて、見学ができると、当人たちが対応するときにより役に立つのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それと演指研として、1年に1回だけ参加し、次は1年後になってしまうと感覚を忘れてしまうという話もいただいた。もう一回ぐらい参加できるかとは思いますが、実際問題、日程もそんなに豊富にないので、そこも今後何か考えていただけると、より良くなるかと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。その他なければ進めさせていただきます。

3 検討事項（1）令和6年度サービス管理責任者等指導者養成研修（国研修）受講報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の検討事項（1）となるが、令和6年度サービス管理責任者等指導者養成研修、国研修の受講報告をお願いしたい。まずは研修の概要と受講状況について、事務局から願います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、国が実施したサービス管理責任者等指導者養成研修会は、専門別コースを9月10日に、その他のコースを9月11日から13日までの3日間で開催された。 <p>東京都からの参加は、基礎研修コースは吉田委員、実践研修コースは樋口委員、更新研修コースは丹澤委員、自治体職員コースは事務局の樋口、専門コース別研修の意思決定支援コースに芝氏、障害児支援コースに稲垣氏に出席いただいた。就労支援コースは事務局の小野瀬が参加した。参加いただいた方から、資料1のとおり、報告書の提出をいただいている。</p>
妹尾委員長	<p>それでは受講された方からの報告を1人5分程度でお願いしたい。</p>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修の報告をさせていただく。本人参加の面談は、意思決定に時間を要したり、支援が必要な方、また会議室や相談室にどうしても緊張してしまうなど難しい場合、その方の居室に行ったり、いつも作業しているスペースに行ったりすることで、本人が必ず参加ができるような環境をしっかりと作っていかうということや、変化が無いから端折るというようなことは絶対に無いように、講義や意見交換の中でも伝えられた。 ・それと意思決定支援の過程で、やっぱりプロセスをすごく大事にする。決める、決めさせるということではなくて、本人がどういうふうに考えているのか、それに対して支援者がどういうふうに皆で意見を出し合うかというところなどプロセスを大事にし、特に基礎研修はその部分を伝えてほしいという話があった。 ・それから児童の5領域で、児童のところは5領域をもう既にやっているところが多かったが、それを改めて明文化して、支援計画に載せていくことを大事にするということ。 ・あとは支援者の自己理解。やはり基礎の部分なので障害者観や支援者観みたいところを受講者が自己覚知も含めて気づいてもらえるような演習になるように。特に先ほどもあったが、受講者の質の部分。基礎なので、福祉の経験が浅い方だったり、専門的な学びをされていない方だったり、いろんな受講者がいるので演習で気づきが得られるようになることだった。 ・あとは専門コース別研修との連動というところや、OJT2年間でしっかりと学びを深めて、サビ管として現場に出ていくところ。ただ2年間を過ごすのではなく、有意義に過ごせるように仕掛けをしっかりと作っていく

	<p>ことも大切と伝えられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換で得た情報だが、主に関東圏、あとは東北、山形の方とグループワークをし、意見交換させていただいた。東京都はどのように検討会や、チームを組んで演習内容に取り組んでいるが、直営であっても全て一任しているとか、演習内容を一人か二人ぐらいで全部作っているところもあったので、その差が関東でも大きいと思った。 ・ファシリ1人で、1グループにつき5人程度で4グループを見ているところもあり、ファシリが見きれていないというところもあった。東京都は時間も人間的なところも、受講者の数も全然違うが、本当に差があった。 ・伝達したいこと、研修を関連づけるというところで、やっぱり先ほどの支援者自身の自己理解とか、支援観、グループワークで気づけるワークがあると更に良いかなと思っている。対話や討議を大切にして、自分の意見、考えを発信できるようになるといい。あとはアセスメントについて基礎研修でもやっているが、アセスメントの重要性を伝えていかないと、趣味趣向のみになってしまって、その方の背景を個別支援計画に反映するということができなくなってしまう。ストレングスなど事前情報をいかにくみ取れるかというところが大事なかなと思っている。 ・意思決定支援のところでも結果だけではなくて、そこに至るまでの準備を含めた過程もやっぱり意思決定支援ということであることを大事にしていければと思う。決めることを目的の第一を置いてしまうと、利用者さんを飛び越えて決めるだけの支援になってしまうので、いかにそこに当事者に参加していただいて、一緒に決めていくかという過程を大事にしていければと思った。 ・先ほどもあったが、基礎研修の演習3、4のところでは少し整理をしているというところは、国研修で大事にしているところを話し合っているのかなというふうに、参加させていただいて気づきを得た。
樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研修の報告をさせていただく。実践研修コースで、私は1と3をまとめて書かせていただいた。 ・全体の講義では、国が言っているのは標準カリキュラムなので、それ以上の研修を都道府県で作ってほしいと強く言われていたのと、最近の施策の動向についてはサビ管、児発管だから、自分の事業所が良ければいいというのではなくて、やっぱり地域に、地域づくりができる人材が今後必要になってくるということと、あとは意思決定支援で、やっぱりご本人がいないところで結構決められてしまって、ご本人が参加できる会議をどんどん増やしていく。むしろ本人なしに会議を進めるなぐらいな感じで、全体の講義では話をされていた。 ・実践研修コースの中では、法定研修全体についての話があった。実践研修は真ん中の研修として、どういう位置づけかという話で、野球に例えた話がすごく分かりやすかった。 ・基礎研修はボールの投げ方とかバットの打ち方を学ぶ。その後の2年間でボールをうまく投げられるようになるとか、打てるようになるというように、計画がちゃんと作れるようになる、本人主体のアセスメントができるようになるという練習をする。 ・実践研修は明日から公式試合で、その確認のための研修ですと。明日、公

	<p>式試合なのに、2年間練習もしてこないで、基礎研修のままここに来るなど、それ位の勢いで言ってくれと言っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新研修はいろんな人がいると思う。県予選の人もいれば、甲子園まで行けたけど、まだ優勝していないとか。でもみんな甲子園優勝を目指そうよという研修であると話があり、分かりやすいと思った。 ・「今はOJT2年間でボールの投げ方をうまくならなきゃ」と考えてくれるかなと思って聞いていた。 ・2年間のOJTに関しては、3年後には具体的な指針が示せるように研究を進めているということなので、令和9年ぐらいには出るのかなと思っていて。 ・法定研修だけで全ての研修を賄えるわけではないので、専門コース別研修や演習指導者養成研修があったりするという話であった。ただ、それだけでも足りないから各区市町村や協議会で、「うちが足りていないのはどんな研修か」というのを考えて、法定研修も含めて、区市町村も「足りない部分のここをやろうよ」という感じで、自分たちのフィールドも踏まえて、研修全体を構築するようなイメージで作るよう目指してほしいという話があり、分かるような、分からないような、そんな話であった。 ・実践研修に関しては、受講者のOJTの経験に差があることについて、どこを救うかという話があって、資料の図3にあるが、2年間何もやってこなかったBadの人、そこそこやってきた80%の人、すごく光っているような10%がいたときに、Badの10%を引き上げようとするすると研修の質が落ちるから、80%の人が少しでも良い10%に行けるような研修を目指してほしいと言われたときに、何か腑に落ちた感じ。 ・Badな人がいて困る都道府県は、この図2の実践研修受講前の事前研修とか、何か工夫すると良いのではないかという話が出た。また研修を増やそうとしているけど。 ・基本的に私はBadの80%を少しでもGoodにするというのに、何となく良いなと思っている。 ・あとは、研修に参加したからすごく良い人に育つかというよりも、やっぱりOJT2年間という実践を積みながらのほうが成果が出るのが研究成果にも出ているということで、95%ぐらいの人はOJTのほうが効果は出ているという話であった。 ・意見交換でびっくりしたのは、本当に規模は東京と他の地域で全然違い、岩手県は基礎研修4日程とかで少ないと思った。また研修を引き受けている業者が、受講料5万円取っているというところもあった。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修の報告をさせていただく。国研修で伝達されたことでは、2024年度より更新研修はSV部分の導入が義務となり、SVが肝となることを強調された。よって、SVが中心の研修が実施されている。先ほど樋口さんも話されていたが、研修全体としては、国の標準カリキュラム以上のものを作って研修を実施してほしいとのことだった。 ・あと、ファシリテーターがグループスーパービジョン、SVの内容をよく知っていることが必要ということも言われている。大きな目標としては、SVの知識と技術を理解する、スーパーバイザーの役割が実践できること。研修は積極的に参加しないと自分のものにならないということをおっしゃる。

れていた。

- ・サービス提供職員等へのSVについてだが、最初に自己紹介、あと名刺交換、アイスブレイクをしている。お題はマイブームということで場を温めた後に、2人1組となってミニ演習を行っている。話す役は、最近の困り事を10分で話して、聞き手は5ステップを意識して行い、交代をする。終了後は感想を伝えるということをやっている。これを最初にやることにより、アイスブレイクで場が温まり、5つのステップを踏んだことで、良い練習となって、後のワークがとてもしやすくなっている。
- ・事例検討のSVでは、受講者像としてはSVの必要性を理解し、積極的に活用するレベルの人であると言われている。ファシリテーターには、どのような流れで研修を行うのか共通理解が必要で、事前にしておくことを言われている。あえて細かな資料を作らない。アセスメントができていないわけではないと言われていた。これは事例検討が主ではなく、やり方を覚えてほしいということなので、細やかな資料を作っていないとのこと。
- ・グループスーパービジョンでは、演習講師1名が事例提供者役となって、もう1名がバイザー役を担っている。質問セッションは各グループではなくて、それぞれ一人一人が挙手をして質問をして、バイザーがその質問を受けて、事例提供者にクッション役となって伝えるという形を取る。今度はグループに分かれてアイデア出しをして、各グループから発表して伝える。これをやったことで、教室全体がすごく盛り上がり温まった。すごく楽しいものになったと感じている。SVをやってきていない人が参加の場合は、一度模擬的なものを見せるとよいということで、その際はファシリテーターが演者となるといいと言われていた。
- ・次の2のところ、意見交換等で得た情報として、実施しているところは茨城と神奈川県で、前年度と比較して受講者数が減っていると言われていた。これは全国的にもそういう傾向にあるよう。
茨城県の話を聞いて良いと思ったのは、SVの講義は大学の先生に国研修の資料を見せて作成を委託して、動画作成をし、受講者に事前視聴していただいでおく。さらに1時間のダイジェスト版も作成して、演習当日に見て、忘れ防止としており、なかなか良いなと思っている。
- ・続いて4のところ、受講生の課題や苦労した点について、これも全国的な話だが、自立支援協議会が分からない受講者が多かったということで、実際に感じているところである。
- ・あと⑤のファシリテーターに関する課題と工夫、留意したことについては、新人講師、新人ファシリテーター募集で、見学とか説明をして受けていただく方には、現役の講師という表現をしているが、現役のファシリテーターをペア担当として、複数回演習に参加しながら養成をしていると。研修と研修会後の懇親会で、講師同士、ファシリテーター同士の交流をしているということが神奈川県からの意見として、なるほどと思った。
- ・⑦の更新研修を実施しての課題としては、千葉県からの話で、SV未経験のサビ管が多く、演習の進め方はファシリテーター介入のポイントも含めて課題を感じたと言われている。
- ・国研修では、事例検討資料をそれぞれが作って持ち寄ってという話もあったが、実際にそれを茨城県がやったら、受講生が演習中に事例を作ること

	<p>にかなり戸惑って、またその中で一つを選ぶとなると、選ばれなかった人が今作ったのは何だったのという意見も出ていたとのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後の3、伝達されたことを都研修と関連づけることに関しては、どちらのところからも意見が出ていたが、国研修のSVスライドは難しい用語や表現が多く、受講生もファシリテーターも含めてつまずくと、その後の演習で影響が出ると感じている。なので、分かりやすい用語に変更するか、または茨城県と同じように専門家に分かりやすいSV講義の事前動画作成依頼をして、ダイジェスト版も作り、それを見ていただいて、理解して演習参加が良いと感じた。 あと、事例検討のSV演習のグループスーパービジョンは、教室全体を一つのグループとして実施をし、会場が一体的に盛り上がって温かさが残る良い演習になったと感じるので、これも導入を検討してもいいのではないかと思った。 <p>基礎研修を終えて実践研修時にあまりOJTを受けていないと感じて、OJTは自分の事業所で受けなくても、隣の事業所で受けても良いと言われていたので、それを実践や更新研修で今後伝えられると良いかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 更新研修も今回時間数が増え、全国的にファシリテーターの数の不足を挙げている。皆さん、本業もある中で時間を捻出して、研修に出向している。数や質を上げる工夫や模索もされているが、事業所からファシリテーターや教室進行を出すことで加算がつく制度を作れば、成り手も増えて、業務を抜けて出向する後ろめたさが減るのではないかと思ったので、再度ご検討をお願いしたい。 国研修のときもこの話をしたら、東京からまずお手本として作っていただき、全国的に広げてほしいと全国からエールを送られている。何とぞよろしくをお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修・自治体職員コースに参加した。はじめに基礎研修の皆さんと一緒に学んで、その後から自治体職員コースに分かれるという内容になっている。国研修で伝達されたこととして、今年度から児童福祉法の改正で通所施設の役割が支援、習得を軸にすることに変わったとの話があったこと。また児童、成人においても、休むことも当事者にとって必要な発達支援であるという言葉があったこと、意見表明支援は意見を形成する支援であるという説明があつて、必要な考え方であると感じた。 また、支援計画を子どもに見せてみて、わくわくできるようなものであるべきという話や、一つの到達目標の中に5領域の観点などたくさんの要素を入れ込んで豊かな計画を作る必要性についての話があった。支援会議について、吉田さんからも話があったが、本人が落ち着ける場でやるのが大事であり、本人が会議室じゃない場所に移れば、その場に職員たちが一緒に行って、そこでまた説明をする等の柔軟なやり方で行うという話もあつて、なるほどと感じた。 意見交換等で得た情報として、群馬、埼玉、千葉、栃木の皆さんとグループワークを行った。 演習として、一人のファシリテーターが受講者16人を対応するというところで、1グループ4人の4グループ制で対応していることや、一人のファシリテーターが4回から8回研修対応してもらっているとの話があった。

	<p>ある県においては、全ての研修を講師一人に対応をお任せしているとのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師は事前にテストに合格しないと従事できないところ、またファシリテーターを自立支援協議会や公募で面接を実施して決めているという自治体もあった。一県だけだったがファシリテーターのフォローアップ研修の予算を確保したということで、フォロー体制を考えているとの話があった。 ・専門コース別研修は、やっているというところもあったが、利益率が良くないためやれていないというところもあった。あとは運営形態について指定、委託、直営等もあった。更新研修については規模が小さいから指定にしているところや、指定にしながらも研修内容の検討に、一緒に入ってもらっているという話があった。全般的に見ると指定のほうが多いかという印象だったが、この先、指定を考えていたり、切替えを考えていたりとの話があったが、講師から研修の質の確保が一番大事にしてもらいたいと話があり、やはりそこが課題だねという話になった。 ・最後に、わくわくする計画とか、休むことも必要な発達支援というキーワードについては、やっぱり支援者は課題を達成することに着目しがちだが、本人ペースに合わせることの重要性について改めて学んだということ、また支援会議の場は本人に合わせた場にするということも究極的な伴走支援となると思った。これらの要素を研修に入れ込む、改めて入れるということも大事ではと感じたことと、やっぱり国研修も本人主体を軸に考えている研修かと思ったが、そのためにはやっぱりアセスメントが重要ということ、支援者側が柔軟な発想で臨めることがやっぱり必要と感じた。 ・東京都の研修もすごく質を大事にしていることを改めて確認したことと、演習指導者養成研修の充実に取り組んでいきたいと感じた。
<p>芝氏 (相談支援従事者研修検討会委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修の意思決定支援のコースについて、報告させていただく。意思決定支援コースだが、意思決定支援はもう私たちの土台というか、絶対に大事にしなきゃいけないものであるとか、当然の権利であり、福祉の方とかみんな頭に入っているだろうし、なのに、なかなかうまく進んでいかない現状がある中で、研修に参加させていただいた。 ・まずは意思決定支援ガイドラインについて、どれだけ浸透していないかといった実際の数字が出て、そんな中で意思決定支援がどうしても必要なのかとか、どんなことが阻んでいるのかみたいなことを演習も行いながら研修をした。 ・その中で気づきのグループワークとして、一番最初に自分の過去を思い出し、周囲の反対を押し切って意思決定した経験を想像してくださいと言われて、そのことを踏まえて、今はどう思っているか、どうなっているか考えて話し合う時間があった。 ・その意思決定を私たちが支援するというより、我が事として、まずは実感を持って感じるのが一番大事だよという話があった。その上で、これまで利用者さんへの支援で意思決定に基づいて行った支援は何か。それから、そうではなくて他の人の意思に基づいた支援はどんなことがあったのか、何でそんなことが起きてしまったのかということグループワークで話し合い、これまで実際の自分が関わってきた事例を思い出しながらの研修であった。

- ・意思決定を阻む要素では次のページになるが、リスク回避とか、情報や経験の不足、パターンリズムにおいて、悪意を持ってやらないわけではないけれど、相手を思うがゆえみたいなこともあるかもしれないという点において、これまでの良かれと思う支援から、いろんな情報を集めて、ご本人がどうしたいと思っているか解釈していくという方向に変えていかなければならないという話があった。
- ・これまでの最善の利益を私たちは求めていくのではなくて、ご本人がどういふのを好むか、どうしていきたいと思うかという最善の解釈をしていくことが大事であって、もう本当にそれがどうしても難しいときの最後の手段が最善の利益であるということで、この最善の解釈と最善の利益には大きな違いがあって、支援つきの意思決定というのは本人がちゃんと決定している。でも、代理代行決定というのは他の人が意思決定しているという、ここの大きな違いを確認した。
- ・またレスキューモデルとエンパワメントモデルということで下の表を作ったが、意思決定といってもいろんな場面があると思うが、緊急度が高く、もう決めなきゃいけないという場面と、差し迫った状況ではない、時間も取れるという、そういった層が日常中ではあるけれども、エンパワメントモデルは普段だったら決めたいことに対応していくレスキューモデル、非日常なことが起こったときは決めなければならないことに対応していく。そんな層を繰り返していくというお話。
- ・やっぱり急に決めなければならない場面、大きな場面で決めるのは無理があるというところで、日頃の日常生活の中でそういったことに取り組む、日常的に決めていくことに慣れていくことも大事だという話があった。
- ・最後のページだが、そういった意思決定を支えていくところでは、やっぱり情報収集と記録というのが大事で、独りよがりではないものだという事。ここでもグループワークとか動画を見ながら、意思決定支援会議の場面などを見る。最初、ご本人意思が尊重されない場面として、退院の場面で、家に帰りたいたいと思っているけど言えないご本人と、「あなたのためには施設がいいですよ」と、みんなが「だって一人じゃ暮らせないでしょう」とか、いろんな話が出てくるが、みんな本人のためを思っているけれども、本人の意向ではない方向に進んでいってしまうところと、そうではない場面も見ながら、グループワークでそれについて話し合った。
- ・意見交換という形ではなかったが、グループワークを通してながら、やっぱり皆さん、「なかなかできていなかった」とか、「どうしても支援者とか家族中心の支援になりがちであった」といったことを全体で共有した。意見やリスクを回避するために、本人意思よりも最善の利益に進みがちであったということも共有した。
- ・研修を受けた中で、全部新しく知った理論とか、そういうわけではなかったが、一日中、みんなで話しながら考えていくことで、すごく得るものは多かった研修であった。今までの研修の中でも、当然本人中心とか、本人の言葉を大切にすることというのは、相談支援専門員の研修でも伝え続けているけれども、どうしても言葉が出ない方とかの意思決定はどうするのだろうかというのは、研修の中でも出てきている中で、何かそこをどういうふうに伝えていけるかなと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に専門コース別研修で意思決定支援について行っているが、すごく大事だし、やっぱりこの研修を受けた後に、自分も日々すごく意識するようになったので、こういった取組はずっと続けていかなければいけないと思った。研修に参加させていただき、ありがとうございます。
<p>稲垣氏 (相談支援従事者研修検討会委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修の障害児支援コースに参加させていただいた。私は、相談支援の研修の中では、現任研修や演習指導者研修を担当している。また、東京都の目指す相談支援専門員の姿というものを担当するチームにも所属していて、その視点を基に研修に参加をさせていただいた。 ・国の研修で伝達されたこととして、行政説明のところが、改めて障害児に関わることを学べたのもとても大きなことで、子ども大綱の説明も丁寧にしていただき、なるほどと思うことがあったのと、自身が所属している地域における児童発達支援センター等を中核とした障害児支援体制整備も学ぶことができ、非常に良かったと感じた。 ・また、児童福祉法の改正によって、指導や訓練という言葉ではなく、支援や習得という言葉が変わったというところから、障害児の支援コースの内容も変わっていたという話も聞いて、なるほどと思うこともたくさんあった。 ・伝達されたことの一歩下の④になるが、このニーズ整理表については、相談支援の初任者研修でも、全く同じニーズ整理表を使用しているが、やはり観点が違うだけでも、ニーズの整理の仕方と解決すべき課題の到達点が大きく違っていて、私としても初任者研修でファシリテーター等々をさせていただく中においても気づきが非常に多かったので、これも研修検討会で伝えていきたいと思っている。 ・2枚目で、これが私たちとしては一番知りたかったところというか、学びたかったところだが、児童期における相談支援の目指す方向性について、どのような形でサビ管、児発管の方々に伝達されているのかを知ることによって、私たちの研修の組立て方も変わってくるところもあり、個別支援計画への連動性について、児発管に向けて研修されている内容を知れたことが大きな収穫になった。その中で、サービス担当者会議の重要性や意義も伝達をされていて、私たちが相談支援専門員として、児童発達支援管理責任者の方々に伝える意義というところも改めて考えさせられた研修になった。 ・そして9番に移り、グループワークのほうを行い、一人だけが相談支援専門員という形で参加をさせていただき、他県の状況をたくさん聞くことができた。その中で、要対協（※要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク））のお子さんのことだったり、医療的ケア児の問題であったり、いわゆる困難ケースを抱えている中での受入れが難しいという判断をする事業所が非常に多く、その解決策が見つからないということは、これは相談支援と全く共通する点なのかなと思う。 ・特に、医療的ケア児の問題に関しては、私は東京都の医療的ケア児コーディネーター養成研修のもさせていただいている中で、非常に結びつく内容も多く、どこも本当に困っているということも改めて感じた。 ・意見交換等で得た情報になるが、「個別支援計画について提出をしているが、相談支援専門員がどのように活用しているか？」という質問が非常に

	<p>グループワークの中でも出ていて、この目標達成のために役割分担していく中で、「まず、会議が必要なのです」という話も私からさせてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都の研修と関連づけて考えたことは、相談支援専門員として、個別支援計画との連動性に関して、サービス等利用計画を基にして個別支援計画を作成していくというイメージの定着を図っていく必要を改めて感じた。私もこども発達支援センターの相談支援専門員と、保育所等訪問支援の管理者等も兼務しているので、児童発達支援センターのスーパーバイズ機能の中で、通所支援事業者への研修会や、東京都の相談支援従事者研修の中でも改めてその内容を広げていきたいと感じた。 ・そして、私も児発管の研修を昨年度に参加させていただいたが、やっぱり学びたい人に合わせるというところが非常に難しいというのは、皆さんが抱えている悩みだということも感じた。 ・私が更新研修に行くときは、どんな感じでファシリテーターがやっているかとか、いろんなことがひそかに気になりながら研修に参加しているが、もう学びたくて、何かをつかみたくて来ている方と、そうでない人との差も非常に感じている。 ・今回の研修に参加して一番思ったことは、相談支援の研修もそうだが、どうしても障害児分野の方はアウェーな感じになってしまう。それが障害児という専門別研修の中では、心理的安全性が保たれる研修と意見交換だったところが非常に大きい。今回この検討会も参加させていただくに当たって名簿を先に拝見したが、3名も障害児の方がいらっしゃるという、すごく温かいと思いながらも、いつもアウェーだなと思いながら、自身も教室進行したり、ファシリテーターしたりする中で、障害者の方はちょっと小さく、障害児しか分からないみたいな感じになってしまう中で、安全性を保たれながらも障害児についてしっかり学んでいくというのは、本当にこの研修に参加することができてありがたかったと感じている。 ・この研修に参加させていただいたこともそうだし、今日この検討会に出席できたことも、とても貴重な経験になった。本当にありがとうございました。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修就労支援コースに参加した。参加に当たって、事前に前年度の動画も拝聴し、当日も参加をした。ただ、どうしても全体に動画は、前年度の動画とほぼ同じ内容になっているということと、あまりワークにならずに講義がずっと続いていた。講師の方は、ぜひ多くの自治体で実施と繰り返しされ、動画の中で内容を簡便するヒントもいただいた。 ・昨年度実施した都道府県は8、厚労省の調査で今年度の実施予定は9で、ただ、未定と答えているところが16あるので、ぜひこの会場で、その16が実施自治体になってほしいということであった。 ・グループワークでは、導入都道府県の実施内容、導入予定の自治体から検討中の内容が発表された。最初の講義をしていただいた大阪の講師の方からは、雇用の分野と障害の分野で連携して研修を作っていくなくてはならないので、それぞれの都道府県で方法を考えてもらいたいということだった。 ・資料には、山梨と愛知と三重からの報告のいた内容を書き出した。実際、

	<p>福祉のサビ管の研修をしているところだけでは実施できず、自立支援協議会の就労支援部門や企業からの協力、または職業センターなどの雇用関係のところから力を借りてやったこと、連携を如何に図ったかが語られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換では、近隣の県で東京、神奈川、埼玉、茨城、福島、群馬の方と一緒に話を聞いた。グループ内での実施は埼玉で、検討は福島だった。福島は、既に新しい研修制度になる前から、就労に特化したフォローアップ研修を実施していて、それを基に考えていくとの話だった。 ・国の研修講師は、地域格差ができてしまうのはまずい、できるだけ実施と繰り返し言われた。ただし、シラバスは集合形式をそのまま実施するが、取り入れ方法は、都道府県それぞれが考えることとも言われた。都であれば専門コース別は、障害児コースを定員400名、オンライン実施である。国のシラバスどおりの実施は難しい。 ・また、実施された県も国のシラバスどおりとは言っていたが、単独では難しく、地域内の就労支援関連の方々の協力の上で実施だった。協力体制を持たないと難しいと感じた。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。では、かなりのボリュームがあった報告になったが、質問とか、この点をもう少し伺いたいとかあるか。
各委員	(なし)

4 検討事項（2）各研修プログラムの検討

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・若干時間も押しているので、検討事項（2）の各研修プログラムの検討に移っていききたい。ここからは各検討チームに分かれていただく。検討内容について、基礎研修は来年度実施に向けてのプログラム内容の検討、実践研修は研修実施に向けての教材作成及び説明の確認、更新研修は来年度実施に向けてのプログラム内容の検討となる。時間になったら、各検討の報告に移ることになるので、よろしく願いたい。
-------	--

(チーム討論)

5 各チームの報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、ここから各チームの副委員長から、順番に検討結果の報告を5分ずつ願いたい。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修は去年、今年と内容をいじってきているので、やりたいところの骨格は出せたかなと思っている。研修は12月で終わるが、次年度に向けて、講義のほうをいじろうという話になった。 ・講義の中で連動が取れていること、そして、講義が演習と連動が取れていることを目指そうということで、1月から動くことにした。現在までのところは、どれも担当者が話をする形で終わっているの、そこを全体で考えていくスタンスでやっていくことを決めた。
妹尾委員長	次、願いたい。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研修はこれから実際に演習、研修が始まるということで、演習ノートを作成していて大分できあがってきている。今回更新研修にSVが入ったということで、国研修の報告もいただいた。国ではSVは更新研修でしかやらないが、知っているという体で演習が構成されてると聞いて、実践研修でも触れておかないと、全く認識がないまま更新研修に行くことになる

	<p>のもどうかということで、国の研修プログラムでは実践研修にSVは入っていないが、少しでも触れたほうが良いということで最終の修正をしている。SVと事例検討会の違いとかの理解も難しくて落とし込めないとの話になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとは事例自体も修正しないと、SVの観点をに入れてワークをするというのが難しい。今年度はSVについて相手の意見を聞き、引き出して、まとめて返すとか、そういう技法としては触れるが、実際に演習としてSV的なことをするのを今回は見送って、来年度に事例なども修正しながら、SVの要素について、サビ管の助言指導する側としての考え方の一つとして触れていけるといいかと考えている。
妹尾委員長	ありがとうございました。更新研修お願いしたい。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日の振り返りを、感想を改めて共有しつつ、次年度に向けてのブラッシュアップできるポイントは何かというところで話をしていた。 ・振り返りの感想と、先ほど国研修の報告を聞いてのところで、SVの講義動画を3時間分作成したが、それを大学に委託している県があるなんてすばらしいのでは、東京でもできる可能性があるだろうかみたいな話が出ていたのと、アイスブレイクの要素がやっぱり弱かったので、次年度はぜひ更新研修でも最初の自己紹介のところに少し場が和むような取組をやるとういかにという意見もあった。 ・あと演習の最後にファシリテーターのコメントをいただいていたが、そのコメントと各演習の目的が合致していたかとか、そこがより明確になるように、こういうコメントをお願いしたいというのを強調したり、もしくは、ファシリのコメント後に教室進行が改めて目標との整合性が取れるようにまとめたりしてもいいのではないかと意見が出た。 ・あとはSVというのが、分からないとか、あまりなじみがないかという中で、来た方の中では「良かった」という感想もあったりしたので、少なくとも必要だよなという気づきには繋がったかなという意見もあった。 ・更新研修で事前動画、集合型の演習、その後に事後配信という流れにしている、何とか演習を1日で終わらせている状況ではあるが、やっぱりかなり詰め込むような形になってしまうので、来年度、例えばその日程を1日半にする余地があるのかという前提はあるが、それができれば、演習の中で少しSVの講義も入れて、ゆとりを持って演習に臨めるかという意見もあったので、その辺をまた協議していけたらと思っている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・他の委員から補足、または質問や確認事項等よろしいか。
各委員	(なし)

6 検討事項（3）研修全体のつながりを意識した研修プログラムの作成

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討事項（3）で研修の全体のつながりを意識した研修プログラムの作成ということで、毎回この内容については、議題では挙げさせていただいている。 ・このことだけに特化しても少し話しづらいようなら、先ほど更新研修でSVが始まって少し実践でも入れないと、ということや、国研修の流れもあったので、先ほどは短くポイントだけ報告していただいたので、実
-------	---

	<p>実践研修のほうでは、さっき児童の個別支援計画の書式の変更のことを、基礎研修とどのように紹介とか情報提供はどうかという話もあったので、その辺りも意見をいただいてもよろしいか。</p>
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 児童分野は、今回、報酬改定で児童福祉法の改正もあったので、いろいろ考え方が変わってきていて、5領域を押さえて計画書の書式とかも全部総入れ替えになっている。先ほど相談支援の方からも意見があったが、児童分野が、大人の事例を扱う中で置いてきぼりになりやすいことは、今までの検討会でも出ていた。 基礎研修でこういうふうに触れているとか、何かあれば、お聞きできたら嬉しい。今年度実践研修を受ける方は、その基礎研修を通してきていないので、実践研修で触れておきたい。コース別研修はあるが受けられない方も多分多くいると思うので。
横山委員	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修は基本的にはベースというところを軸にしたいところで、個別支援計画の作成の演習後のところで、様式が変わっていますみたいな感じで、少し5領域を入れるという説明と提示をしたぐらいである。 やっぱり、基礎研修は児童でも成人であってもプロセス、考え方を身につけてというのがベースなので、そこで児童、児童という言い方は本当にしていなく、私も講義の部分でも今年度から5領域というのをきっちり提示してくださいという話にはなっているという話はしているが、そもそも5領域は急にピックアップされたわけではなく、もともとあったもので、そこを明確に提示するよというのを着目して講義をしているところ。 ただ、今年度実践研修を受ける方は、OJT半年で通ってきている方はいないので、そうすると、誰も聞いていない感じにはなるかと思っている。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。実践研修でも今回の演習では大人はこのシートを使うけれども、児童分野だとこうなっているとか、さらっと触れるぐらいでいいかと思っている。基礎研修で通っていない方がいるので、触れていきたいと思う。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> その他、いかがか。逆に、先ほど会田副委員長と宮田副委員長でSVのことについて、お互いにどのぐらい入れたほうがスムーズかみたいなこともあったが、どうか。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修では、SVという単語を更新研修で初めて見たということにならない位になっていればいいと思う。更新研修で初めてSVという単語を見てワードの説明を一からされるみたいなことだと、そのこと自体を理解するのに結構時間がかかったりする。その後の演習までなかなか追いつかなかったりすると思う。やっぱり説明がすごく難しいと思うので、あまりしっかり説明するつもりはないので、そういう考え方、視点があるぐらいの感じで、実践研修では押さえておきたいと思っている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> その他、如何か。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの振り返りでも、馴染みがないとか、根づいていないみたいなこともあったので、やり慣れていないにしても、“そういえば実践研修でもそんな言葉が出ていたな”ぐらいに思い返せると、更新研修に臨むときにいいかと確かに思った。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 国研修のときに樋口さんから伺ったお話。国研修の実践研修の中でSV

	<p>のミニ演習を実施されたことを伺った。それで5つのステップによるミニ演習をしたと聞いて、つながりのある研修として実践研修に、そういうのを入れていただくと5年後の更新研修のときに思い出してくれたらいいなと思いますごく感動した。</p>
樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱い思いはあったが、今年度はちょっと間に合わなくて、来年度に頑張りたいと思う。 ・ S Vの5個のステップ中の1、2、3は、結構私は分かりやすいなと思う。相手と向き合って、話を要約して、聞いているよというアピールはできると思う。でも、なかなか「あの職員は嫌なんですよ、大変だよね」と聞いていながら、その職員のことから離れて、違うことを考えてもらうよう4番、5番で質問して引き出すというのは難しいと思っている。 ・ そこを実践研修でも、何か支援に悩んでいるので、周りの職員が、今のままでいいよと言われていて、悩みを話しながら、でも、「じゃあ、実際に支援している〇〇さんに、どうなってもらいたいかな」といった感じで職員とのやり取りから、「いやいや、でも支援者の本人は今どう思っているのかね」みたいな質問すると、気持ちが切り替わって、「ああ、あの職員は嫌いだけど、でもこの人は支援しなくちゃね」というところが、すごく大事だと思うので、そういう部分ができるといいという構想があったが、間に合わなかった。すみません。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年に向けて、どうなったらいいかという目標はたくさん出たと思うので、これを生かしていただければと思う。なかなかS Vに関しては、抽象的な専門用語を、実際の現場や、具体的な支援者の言葉、行動をどう伝えるかというところに落とし込むまでが、慣れるまでに時間がかかると思うが、先ほど樋口様が言われたみたいな、例えばこんなふうに声をかけるとか、こういうことを相手から聞いてみるとか、それを知った上で、次はどんなふうにその職場で考えていくかみたいな感じで、このステップ5みたいに、フローみたいに少しやっていると、パターンとか、思考プロセスが視覚化されてくる形になると思うので、その思考過程を明確にしていく。 ・ この人をどう理解して、それに対してどう考えて、どう行動していくか、それを同じチームの職員でどう構築していくかが、どんどん可視化していけるような形の研修になると、新しい方も分かりやすいかなと思った。 ・ 私がいろいろ言ってしまったが、そのほかに如何か。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日ご報告でもいただいた意思決定支援について、すごくいいなというふうに思った。以前都とも話をしたときに、研修の中で明確には意思決定支援という単語が出てこない。ただ、研修のプログラムの日程的に、都にはコース別で意思決定支援をやる余白はないから、そういう専門コースをするというのはちょっと難しいというのと、あとは、単語自体は出てきていないけど、各研修でそのポイントについては触れているから、そこでいいんじゃないかみたいな話にはなったが、すごく大切だなと思いました。今回、方向性が今までよりももうちょっと深まったし、明確になったなというふうに思うので、実践研修でも大切にしながら、うまく伝えられるようになるというのを今日感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・あとは、本人参加の面談についてすごく国研修では言われているというところで、今まで研修に参加してきて、児童分野の方は特に面談に子供がなくて当たり前みたいな、いられないしみたいな感じで、無理ですものみみたいな感じで終わっていて、ファシリテーターもあれはどう返したらよかったですかと、児童じゃない方とかだと結構悩まれてたりしていた。その基本みたいなところは、どこかしら、ポイント、ポイントで、しっかりプログラムとして組む必要はないと思うが児童分野のほうはちゃんと伝えていきたいなみたいな感じではすごく思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・意思決定支援のところでも今日の国の報告を拝見したときに、ガイドラインを知らない人は何%とか、責任者の選任の状況とか、この数字を見ると、なかなかまだまだ努力が必要という状況をより認識をされた感もありました。各研修の中で触れられたときに、国とかこのガイドラインだとか、資料を、皆さんに絶対に見てくださいとまでの強制は難しいでしょうが、研修の前にここもできれば事前に目を通していただけると、より研修がスムーズですというような、ちょっと情報提供のような、演習資料のどこかによかったらここもちょっと見ておいてくださいみたいなのも少しあってもいいかもしれないかなというふうに思った次第です。 ・そのほか、よろしいでしょうか。
各委員	(なし)

7 まとめ

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後、本日の検討が済んだことを宣言して、進行を事務局のほうに戻したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆さんお疲れさまでした。 ・議事録の要旨を事務局で作成し、皆様にメールで送るので確認いただきたい。 ・議事録の要旨と本日の資料は当センターホームページに掲載する。 ・次回、第4回検討会は、3月11日火曜日、午後、会場は本日同様、心身障害者福祉センターで行う予定。詳細は別途案内する。 ・以上で閉会とさせていただきます。お忙しい中、ご参加ありがとうございました。